

シャープペンシル-クリップの作図 (AR_CAD)

【2D-CAD Lesson-32】

〔参考 A〕 これまでに操作した内容一覧

これまでに操作した内容を 50 音順で下表にまとめてあります。

操作	Lesson	表題	ページ
【移動】ボタンによる要素の移動	02	3. [2] (ケ) C) 1.2 【移動】ボタンによる要素の移動	p. 15
2つの円に接する円弧の作成	11	5. [2] (イ) 2つの円に接する円弧の作成	p. 21
2つの円に接する円弧の作成	11	5. [2] (イ) 2つの円に接する円弧の作成	p. 21
2つの円の接線	06	4. [1] (イ) 2つの円の接線の作成	p. 4
2つの直線に接する円	17	4. [5] (ア) C) 2つの直線に接する円の作成	p. 16
3点円弧【始点>終点>通過点】	04	5. [2] (エ) A) 3点円弧【始点>終点>通過点】による円弧の作成	p. 11
R付け (フィレット)	02	3. [2] (オ) R付け (フィレット)	p. 9
移動メニュー	01	3. [2] (ト) C) [参考 D] “移動”に関するメニュー	p. 49
ウィンドウの切り替え	03	4. [参考 B] ウィンドウの切り替え方法	p. 4
上書き保存	01	1. [4] 上書き保存	p. 4
エリア間の複写	02	5. [2] (ア) 要素のエリア間の複写	p. 23
エリアについて	01	1. [8] エリアについて	p. 10
エリアの移動	01	5. [2] (ア) エリア「正面図」の移動	p. 65
エリアの拡大・縮小	01	1. [8] (ア) エリアの拡大・縮小①	p. 11
エリアの切り替え	01	3. [2] (ア) 入力エリアの切り替え	p. 14
エリアの削除	07	4. エリア「A-0-B 断面図」の削除	p. 4
エリアの尺度変更	01	3. [1] (イ) エリアの尺度変更	p. 14
エリアの新規作成	01	3. [1] (ア) エリアの新規作成	p. 13
エリアの整列	01	5. [3] エリアの整列	p. 67
円弧【径角指定】	06	4. [1] (エ) 円弧の作成【径角指定】	p. 6
円周上の点の接線	18	9. [2] 円周上の点の接線の作成	p. 16
円の直径寸法	01	4. [2] (キ) C) 1.1 円の直径寸法	p. 61
円の複線	01	4. [2] (オ) B) 円の複線	p. 60
回転移動	08	6. [2] (ア) 要素の回転移動	p. 8
角度寸法	04	4. [2] (エ) 寸法記入① (角度寸法)	p. 6
簡易文字	01	3. [2] (ナ) B) 寸法値 (テキスト) の追加	p. 53

操作	Lesson	表題	ページ
記入レイヤ、記入線種で貼付	01	3. [2] (エ) [参考 B] “ 複線 ” に関わるメニューについて	p. 21
曲線	04	5. [2] (ク) 曲線による破断線の作成	p. 14
距離設定による水平・垂直線	01	3. [2] (イ) C) 1.2 距離設定による水平線・垂直線	p. 17
距離設定による端点自由伸縮	01	3. [2] (ウ) 距離設定による端点自由伸縮	p. 18
コマンド使用時の線種・レイヤ設定	01	1. [6] (イ) 各コマンド使用時の線種・レイヤ等の設定	p. 8
参考寸法	01	3. [2] (テ) B) 1.3 長さ寸法③ (参考寸法)	p. 41
軸の破断線による省略	04	5. [2] (エ) 軸の破断線の作成による長手方向の省略	p. 10
指定基準線まで伸縮	01	3. [2] (カ) C) “ 指定基準線まで伸縮 ” によるトリム	p. 24
尺度について	01	3. [1] (イ) [参考 A] 尺度について	p. 14
詳細線・引出し線の作図	02	3. [2] (ケ) 詳細線・引出線の作図①	p. 12
垂線とは	01	3. [2] (ナ) [参考 F] 垂線	p. 52
水平・垂直線	01	3. [2] (イ) C) 1.1 水平線	p. 16
水平・垂直線とは	01	3. [2] (イ) C) [参考 B] 水平線・垂直線	p. 17
スナップ	01	1. [7] スナップについて	p. 8
寸法記入メニュー	01	3. [2] (テ) B) 寸法記入	p. 37
寸法線・寸法値の編集	01	3. [2] (ト) C) 寸法線・寸法値の編集①	p. 45
寸法の表記方法の変更	01	3. [2] (テ) B) 1.1 [参考 1] 寸法の表記方法の変更	p. 40
接円	07	5. [2] (イ) 3つの要素に接する円の作成	p. 5
接円の作成方法	18	5. [1] [参考 B] 接円の作成方法	p. 8
接線 (角度指定)	17	4. [5] (ア) A) 角度を指定した接線の作成	p. 14
切断線	02	4. [2] (イ) 切断線	p. 19
選択した直線の角度を参照した直線	01	3. [2] (ナ) A) 1.1 選択した直線の角度を参照した直線	p. 50
選択した直線の垂線	01	3. [2] (ナ) A) 1.2 選択した直線の垂線	p. 51
相対	02	3. [2] (ア) [参考 B] 相対について	p. 6
多角形の作成	11	4. [1] (イ) 多角形の作成	p. 5
中心線	02	3. [2] (イ) 中心線の作成	p. 7
長方形の作成 (矩形)	02	3. [2] (ア) 長方形 (矩形) の作成	p. 4
直線 (角度指定)	04	4. [2] (イ) 角度を指定した直線	p. 4
直線 (2点)	01	3. [2] (ケ) A) 2点指定	p. 29
直線の複線 (距離指定)	01	3. [2] (オ) 直線の複線 (距離指定) ①	p. 22
直線の複線 (任意位置)	01	3. [2] (エ) 直線の複線 (任意位置) ①	p. 19
直線メニュー	01	3. [2] (イ) A) 直線メニュー	p. 15
テキストの移動	01	3. [2] (ト) C) 1.4 寸法値 (テキスト) の移動①	p. 47

操作	Lesson	表題	ページ
テキストの内容変更	01	2. [2] (イ) テキストの変更	p. 12
投影による作図	11	4. [2] (ウ) R 形状の投影をした作図	p. 11
トリム (コーナー)	01	3. [2] (カ) A) 「 コーナー 」 によるトリム	p. 22
内接と外接	11	4. [1] (イ) [参考 B] 内接と外接	p. 6
長さ寸法	01	3. [2] (テ) B) 1.1 長さ寸法①	p. 38
長さ寸法 (直径)	01	3. [2] (テ) B) 1.4 長さ寸法④ (直径)	p. 42
名前を付けて保存	01	1. [3] 名前を付けて保存	p. 3
任意の位置による端点自由伸縮	01	3. [2] (カ) B) “ 端点自由伸縮 (任意の位置) ” によるトリム	p. 23
ハッチング	02	5. [2] (オ) ハッチングの作成	p. 27
巾線	04	5. [2] (イ) 巾線を使用した直線	p. 8
半径寸法	01	3. [2] (テ) B) 1.5 半径寸法	p. 43
反転移動	03	6. [3] 反転移動①	p. 12
反転複写	04	5. [2] (エ) B) 円弧の “ 反転基準線指示 ” による複写	p. 12
引出文字	02	3. [2] (ケ) B) 引出文字の作成①	p. 13
引出文字の編集	02	3. [2] (ケ) C) 引出文字の編集①	p. 15
ファイル間の貼付	03	5. [2] (イ) A) “ 蝶番 ” 正面図の貼付①	p. 7
ファイル間の貼付 (角度指定)	03	5. [2] (イ) B) “ 蝶番 ” 正面図の貼付② (角度入力)	p. 7
ファイル間の複写	03	5. [2] ファイル “ No01-蝶番 ” からの正面図の複写	p. 5
ファイルを開く	01	1. [2] ファイルを開く	p. 2
フォントの設定をしたテキストの追加	19	11. [1] ベースエリアのテキスト追加	p. 11
複写 (数値指定)	11	4. [2] (キ) 数値指定による複写	p. 14
マウス操作	01	1. [5] マウス操作	p. 4
マルチ文字	02	6. [2] (エ) マルチ文字によるテキスト追加①	p. 32
見やすくするための寸法の記入方法	22	7. [1] [参考 B] 寸法の記入方法	p. 9
面取り	01	3. [2] (サ) A) 面取りの作成①	p. 31
面取り寸法の作成	01	3. [2] (ナ) 面取り寸法の作成	p. 50
矢印を追加した直線	01	3. [2] (ト) C) 1.3 寸法線 (矢印を追加した直線) の作成①	p. 46
要素選択	01	2. [2] (ア) 【 要素選択 】 ボタン	p. 12
要素の削除	01	3. [2] (ク) B) 要素の削除	p. 27
要素の切断	01	3. [2] (ク) A) 要素の切断	p. 26
要素のトリム (伸縮)	01	3. [2] (カ) 要素のトリム (伸縮)	p. 22
要素の複写	02	4. [2] (ウ) 要素の複写	p. 21
要素のレイヤ変更	02	5. [2] (ウ) 要素のレイヤ変更	p. 26
レイヤ	01	1. [6] レイヤについて	p. 5

操作	Lesson	表題	ページ
円の作成（中心指定）	01	4. [2] (オ) A) 円の作成	p. 59
円の作成（半径指定と基点指定）	01	3. [2] (キ) 円の作成（半径指定と基点指定）	p. 24

1. はじめに

図面 “ No03-クリップ. jpg “ を参考に作図をします。
 “ A3_部品図_原紙. SGD ” を使用して作図を行います。

2. ファイル操作

ファイル “ A3_部品図_原紙. SGD “ を開き、” No03-クリップ “ で、名前を付けて保存します。

3. 図面名称欄の編集

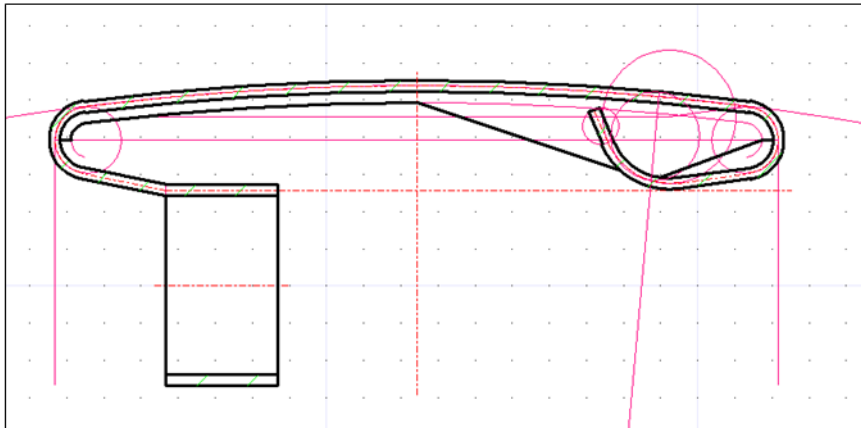
右図のように、図面名称欄を編集します。

番号	図面名称	尺度
③	クリップ	3/1

5. エリア「 B-B 断面図 」の作成

名称を“ B-B 断面図 ”，尺度を“ 6/1 ”でエリアを新規作成します。

〔1〕 「 B-B 断面図 」の作図

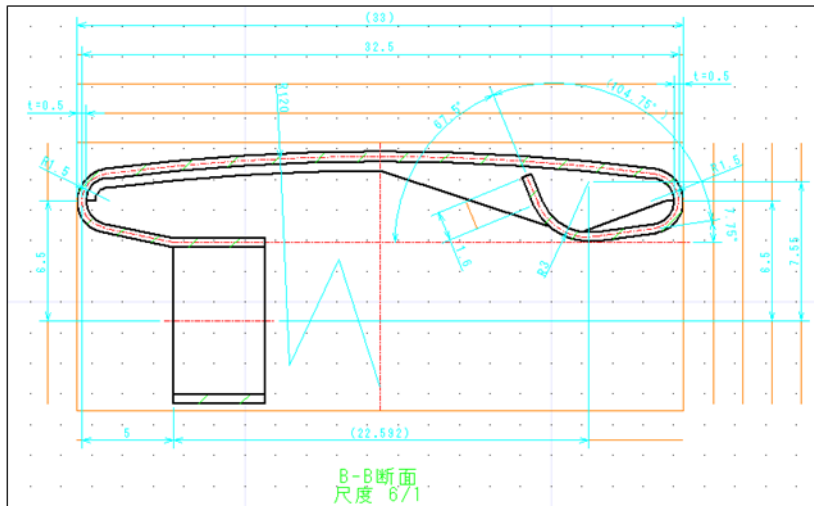


レイヤ

“ グループ 0 - No. 0 ” 【 外形線① 】 ，
“ グループ 0 - No. 1 ” 【 中心線 】 ，
“ グループ 0 - No. 10 ” 【 ハッチング 】 ，
“ グループ 0 - No. 14 ” 【 作図補助線 】 で、
上図のように、作図をします。

“ 中心線 ” は、実寸で約 “ 3 mm ” 突出します。

“ ハッチング ” は、角度を “ 45° ” ，ピッチを 実寸で “ 10 mm ” で作成します。



つぎに、レイヤ

“ グループ 0 - No. 11 ” 【 寸法 】 ，

“ グループ 0 - No. 12 ” 【 テキスト 】 ，

“ グループ 0 - No. 15 ” 【 寸法位置線 】 で、

上図のように、テキストの作成と寸法記入をします。

(“ 作図補助線 ” は、非表示にしています。)

“ テキスト ” は、【 マルチ文字 】を使用して、高さ、幅を共に “ 6 mm ” で作成します。

“ 寸法位置線 ” は、間隔を 実寸で “ 10 mm ” 空けて作成します。

テキストの作成と寸法記入が終わりましたら、エリアサイズを任意の大きさに変更します。

〔参考 B〕 大きい R 寸法の記入方法

前述の寸法記入で、” R120 ” のように、中心までの距離が大きく図面で描くことが難しい場合、つぎのように記入します。

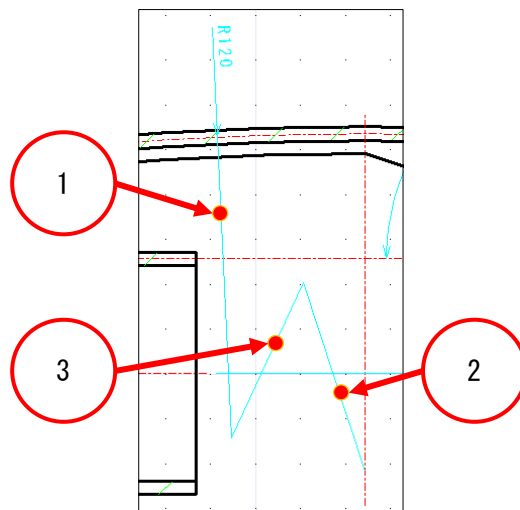
右図のように、

右図 1 の “ 寸法線 ” は、必ず円弧の中心を通ります。

右図 2 の “ 寸法線 ” は、任意の角度で作成し、片方の端点は、必ず円弧の中心線上に合わせます。

右図 3 の “ 寸法線 ” は、右図 1 と右図 2 の “ 寸法線 ” の端点をつなぎます。

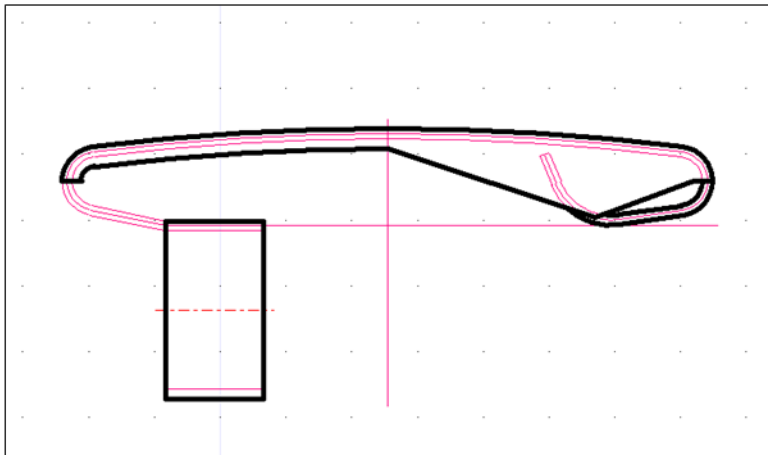
このとき、右図 1 の “ 寸法線 ” の端点は、右図 2 の “ 寸法線 ” の端点を超え、右図 2 の “ 寸法線 ” の端点は、右図 1 の “ 寸法線 ” の端点を超えるように作図します。



6. エリア「右側面図」の作成

名称を“右側面図”，尺度を“3/1”でエリアを新規作成します。

〔1〕 「右側面図」の作図（1）



エリア“B-B断面図”の“外形線①”，“中心線”で作成された要素を“作図補助線”で複写し、

レイヤ

“グループ0 - No.0”【外形線①】，

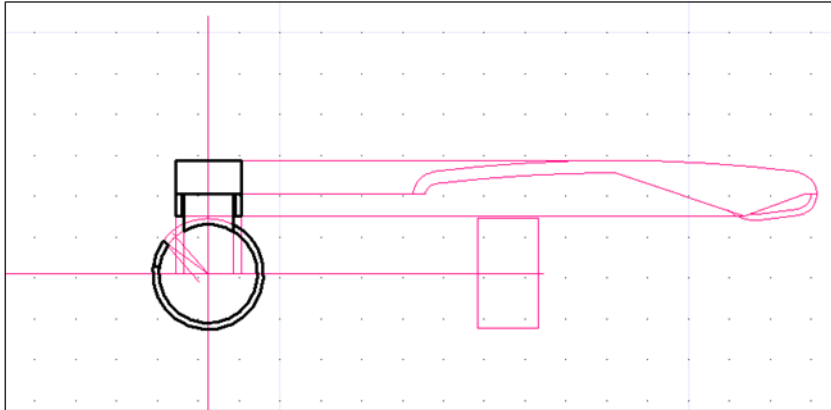
“グループ0 - No.1”【中心線】で、

上図のように、作図をします。

7. エリア「正面図」の作成

名称を“正面図”，尺度を“3/1”でエリアを新規作成します。

〔1〕 「正面図」の作図



エリア「右側面図」の“外形線①”，“中心線”で作成された要素を“作図補助線”で複写し、

レイヤ

“グループ0 - No.0”【外形線①】，

“グループ0 - No.14”【作図補助線】で、

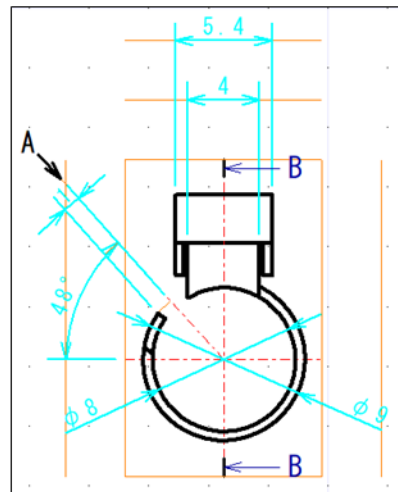
で上図のように作図します。

つぎに、レイヤ

- ” グループ 0 - No. 1 ” 【 中心線 】 ，
- ” グループ 0 - No. 5 ” 【 切断位置線 】 ，
- ” グループ 0 - No. 6 ” 【 矢視線 】 ，
- ” グループ 0 - No. 9 ” 【 引出線 】 ，
- ” グループ 0 - No. 11 ” 【 寸法 】 ，
- ” グループ 0 - No. 15 ” 【 寸法位置線 】 で、

右図のように作図と寸法記入をします。

(“ 作図補助線 ” は非表示にしています。)



“ 中心線 ” は、実寸で “ 3 mm ” 突出します。

“ 切断位置線 ” は、長さを実寸で “ 3 mm ” の直線で作成します。

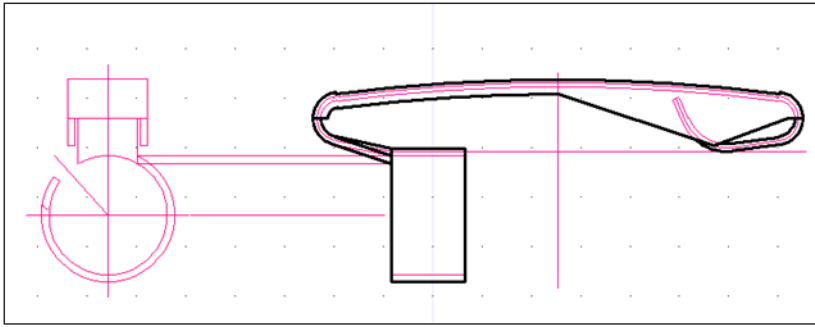
“ 矢視線 ” は、【 引出文字 】を使用して、寸法 “ 1 mm ” の寸法補助線から、実寸で 約 “ 1.6 mm ” の間隔を空け、矢印線の長さを 実寸で 約 “ 6 mm ” ，テキストの高さ，幅を共に “ 5 mm ” で作成します。

“ 引出線 ” は、【 引出文字 】を使用して、矢印線の長さを 実寸で 約 “ 9 mm ” ，テキストの高さ，幅を共に “ 5 mm ” で作成します。

“ 寸法位置線 ” は、間隔を 実寸で 約 “ 10 mm ” 空けて作成します。

作図と寸法記入が終わりましたら、エリアサイズを任意の大きさに変更します。

8. 「右側面図」の作図（2）



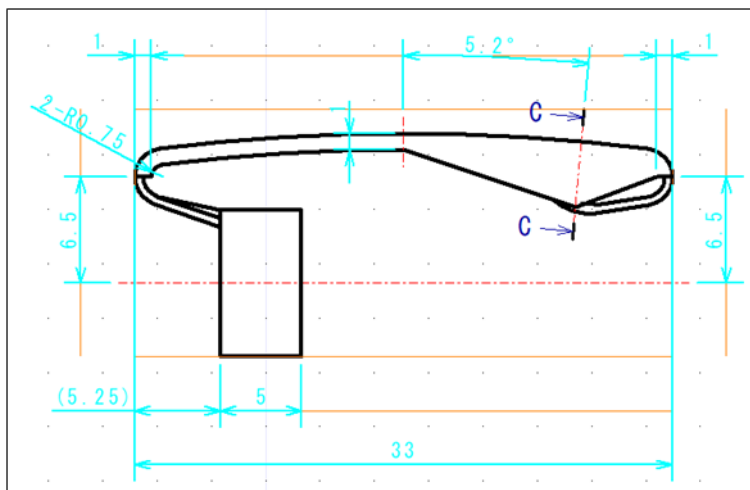
エリア「正面図」の“外形線①”，“中心線”で作成された要素を“作図補助線”で複写し、上図のようにレイヤ“グループ0 - No.0”【外形線①】で作図をします。

つぎに、レイヤ

- “グループ0 - No.1”【中心線】，
- “グループ0 - No.5”【切断位置線】，
- “グループ0 - No.9”【引出線】，
- “グループ0 - No.11”【寸法】，
- “グループ0 - No.15”【寸法位置線】で、

下図のように作図と寸法記入をします。

（“作図補助線”は非表示にしています。）



“中心線”は、実寸で“3 mm” 突出します。

“切断位置線”は、長さを実寸で“3 mm”の直線で作成します。

“引出線”は、【引出文字】を使用して、矢印線の長さを 実寸で約“6 mm”，テキストの高さ、幅を共に“5 mm”で作成します。

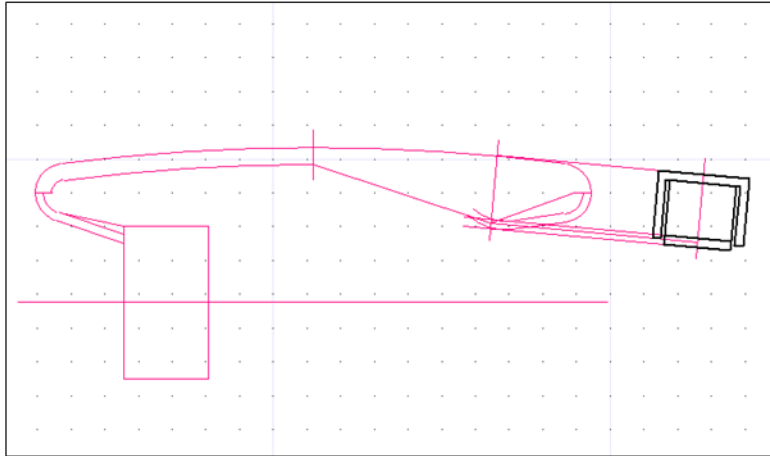
“寸法位置線”は、間隔を 実寸で約“10 mm” 空けて作成します。

作図と寸法記入が終わりましたら、エリアサイズを任意の大きさに変更します。

9. エリア「C-C断面図」の作成

名称を“C-C断面図”，尺度を“5/1”でエリアを新規作成します。

[1] 「C-C断面図」の作図



エリア「右側面図」の“外形線①”，“中心線”で作成された要素を“作図補助線”で複製し、

レイヤ“グループ0 - No.0”【外形線①】で上図のように作図をします。

つぎに、

レイヤ

“グループ0 - No.1”【中心線】，

“グループ0 - No.10”【ハッチング】，

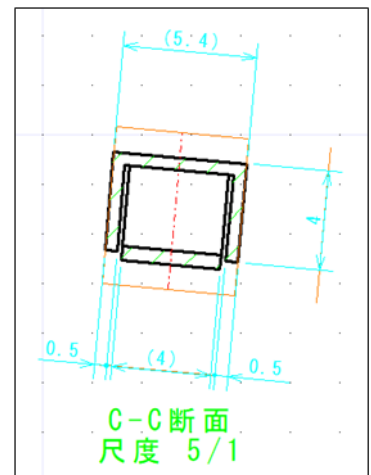
“グループ0 - No.11”【寸法】，

“グループ0 - No.12”【テキスト】，

“グループ0 - No.15”【寸法位置線】で、

右図のように、テキストの作成と寸法記入をします。

(“作図補助線”は、非表示にしています)



“中心線”は、実寸で“3 mm”突出します。

“ハッチング”は、角度を“45°”，ピッチを 実寸で“3 mm” で作成します。

“テキスト”は、【マルチ文字】を使用して、高さ、幅を共に“6 mm”で作成します。

“寸法位置線”は、間隔を 実寸で“10 mm” 空けて作成します。

テキストの作成と寸法記入が終わりましたら、エリアサイズを任意の大きさに変更します。

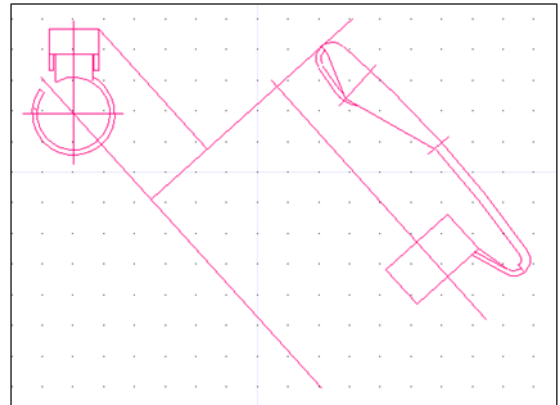
10. エリア「A矢視図」の作成

名称を“ A矢視図 ”，尺度を“ 5/1 ”でエリアを新規作成します。

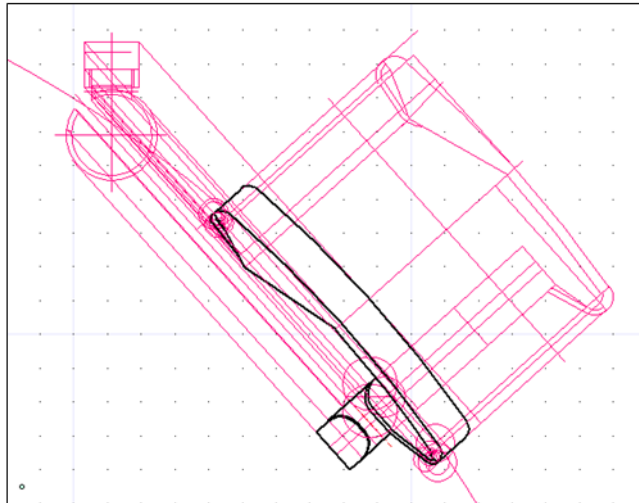
〔1〕 「A矢視図」の作図

(ア) エリア「正面図」，エリア「右側面図」からの要素の複写

右図のように、エリア「正面図」，
エリア「右側面図」の“ 外形線① ”，
“ 中心線 ”で作成された要素を複写し
ます。



(イ) 「A 矢視図」の作図(1)



レイヤ

”グループ0 - No.0”【外形線①】，

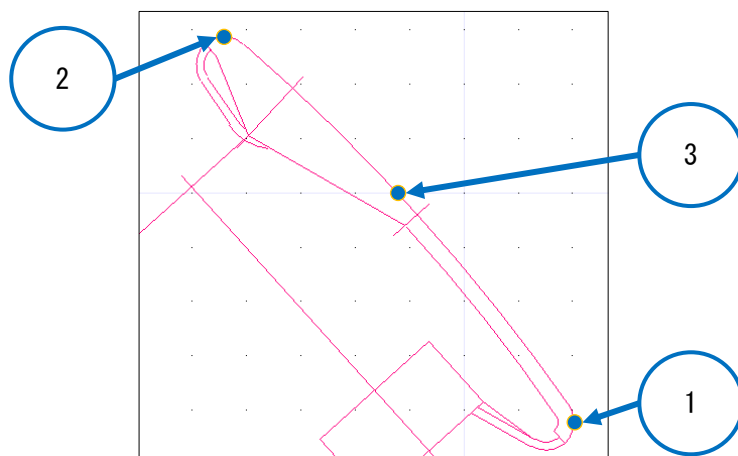
”グループ0 - No.14”【作図補助線】で、

上図のように、投影したときの交点を求めながら、作図を行います。

(交点を求めるときに“測定”をする必要があります。“測定”については、後述の[参考C]を参照してください。)

エリア「右側面図」から複写した形状から測定し、その値をエリア「正面図」から複写した形状に【複線】を使用して交点を求めます。

〔参考 C〕 測定を使用しての図の作成



ここでは、上図 1 ~ 上図 3 の稜線の矢視図を【測定】を使用して、作成します。

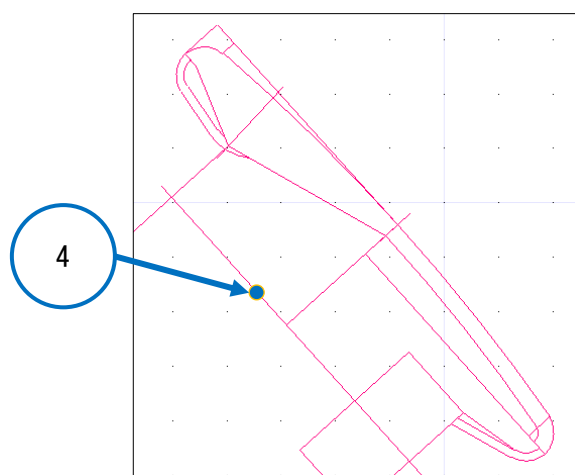
A) 測定前の直線の作成

右図のように、右図 4 の直線に平行、垂直な直線を作成します。

(上図 1 の円弧の端点から、垂直な直線，

上図 3 の円弧の中心から、平行、垂直な直線，

上図 2 の円弧の端点から、垂直な直線)



B) 測定について

右図 1 【測定】ボタンをクリックします。



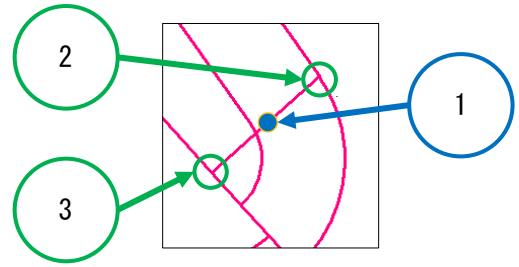
【測定】ボタンをクリックすると、下図のように、画面上部に測定のメニューが表示されます。



ここでは、「距離」、「角度」、「座標」について記述します。

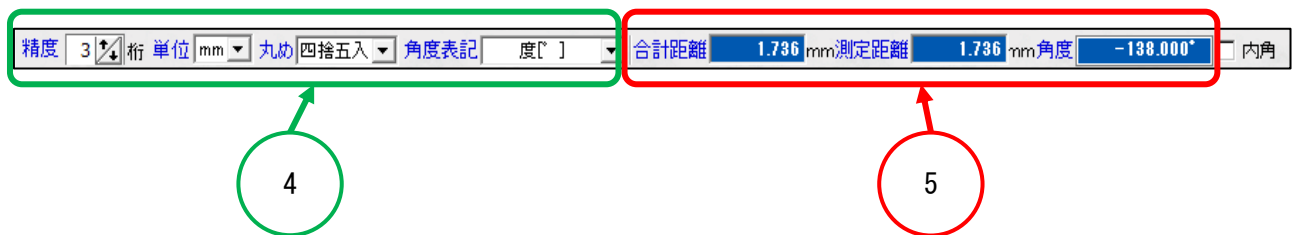
1.1 「距離」

例として、右図 1 の直線の端点（右図 2，右図 3）の距離を測定します。



【距離】ボタンをクリックし、1点目として、右図 2 の端点（または、交点）、2点目として、右図 3 の端点（または、交点）をクリックします。

【距離】ボタンをクリックすると、ボタンの下部に下図が、表示されます。



上図 4 は、測定時の設定項目です。

「精度」は、測定結果の小数点以下の桁数を指定します。

「単位」は、測定結果の単位を指定します。

「丸め」は、測定結果の桁数に“1”を加算した桁を”四捨五入”，”切り上げ”，”切り捨て”のいずれかを設定をします。

「角度表記」は、測定結果の角度の表記方法を「度[°]」,「度分秒[° ’ ”]」から選択します。

上図 5 は、測定結果です。

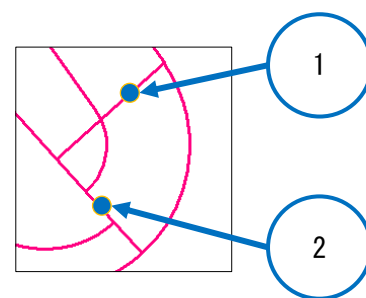
「合計距離」は、連続で測定したときの合計距離です。（2回目以降の測定時、最後に選択した端点が1点目として測定されます。）

「測定距離」は、2点間の距離です。（2回目以降の測定時、最後に選択した端点が1点目として測定されます。）

「角度」は、2点で結ばれた直線の“X軸”の、”正（プラス）”方向から、反時計回りに測定した角度です。クリックする順により、”正負（プラスマイナス）”が変わります。

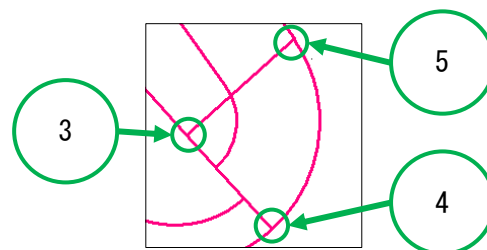
1.2 「角度」

例として、右図 1 の直線と右図 2 の直線の角度を測定します。

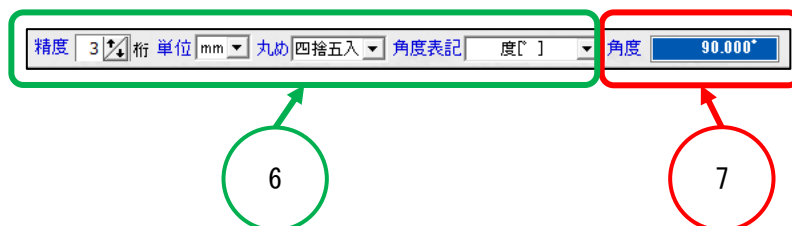


【角度】ボタンをクリックし、1点目として、右図 3 の端点（または交点）をクリックします。

つぎに、2点目として、右図 4 の端点（または交点）をクリック、3点目として、右図 5 の端点（または交点）をクリックします。



【角度】ボタンをクリックすると、ボタンの下部に下图が、表示されます。



上图 6 は、測定時の設定項目です。

「精度」は、測定結果の小数点以下の桁数を指定します。

「単位」は、測定結果の単位を指定します。

「丸め」は、測定結果の桁数に“1”を加算した桁を”四捨五入”，”切り上げ”，”切り捨て”のいずれかを設定をします。

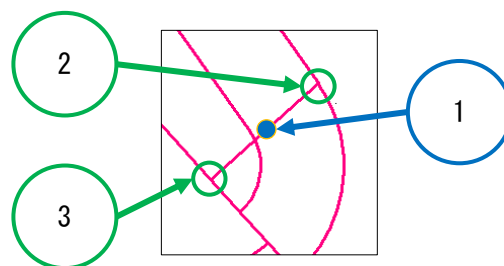
「角度表記」は、測定結果の角度の表記方法を「度[°]」,「度分秒[°′″]」から選択します。

上图 7 は、測定結果です。

「角度」は、“X軸”の、“正（プラス）”方向から、反時計回りに測定した角度です。（端点選択時、2点目と3点目を逆に選択すると、測定結果は、マイナスになります。）

1.3 「座標」

例として、右図 1 の直線の端点（右図 2，右図 3）の、「X 軸」方向、「Y 軸」方向の距離を測定します。



【座標】ボタンをクリックし、1 点目として、右図 2 の端点（または、交点）、2 点目として、右図 3 の端点（または、交点）をクリックします。

【座標】ボタンをクリックすると、ボタンの下部に下図が、表示されます。



上図 4 は、測定時の設定項目です。

「精度」は、測定結果の小数点以下の桁数を指定します。

「単位」は、測定結果の単位を指定します。

「丸め」は、測定結果の桁数に“1”を加算した桁を“四捨五入”，“切り上げ”，“切り捨て”のいずれかを設定をします。

「角度表記」は、測定結果の角度の表記方法を「度[°]」,「度分秒[°′″]」から選択します。

上図 5 は、測定結果です。

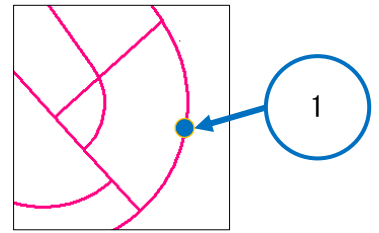
「X座標」は、1 点目を基準として、2 点目への「X 軸」方向の座標差です。（連続で測定すると、1 点目が固定され、2 点目を選択します。）

「Y座標」は、1 点目を基準として、2 点目への「Y 軸」方向の座標差です。（連続で測定すると、1 点目が固定され、2 点目を選択します。）

「角度」は、2 点で結ばれた直線の“X 軸”の、“正（プラス）”方向から、反時計回りに測定した角度です。クリックする順により、“正負（プラスマイナス）”が変わります。

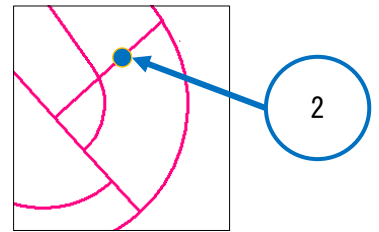
C) R形状の投影 (1)

右図 1 の R 形状の矢視図を作成します。

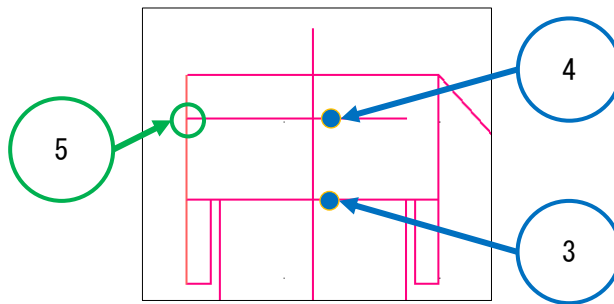


1.1 距離測定

右図 2 の直線の距離を測定します。
(測定結果 “ 1.736 ” を次の手順で使用します。)

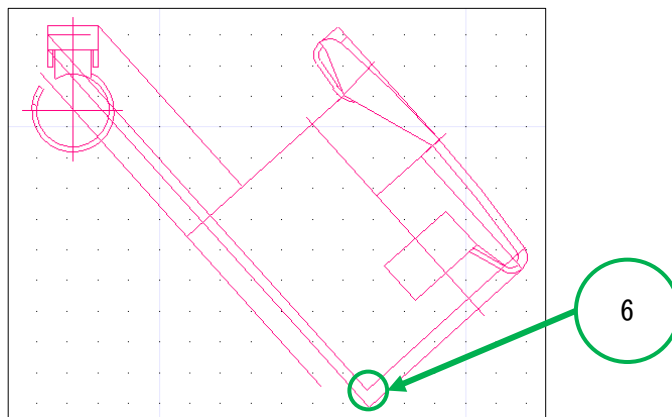


1.2 【複線】による交点の作成



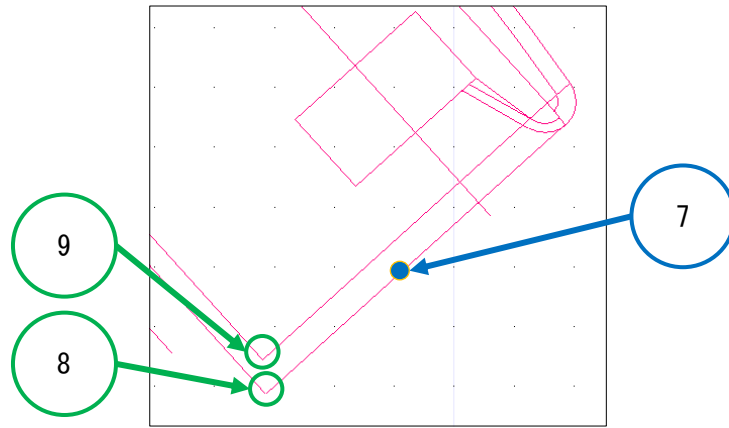
上図のように、上図 3 から距離を ” 1.736 ” とした複線 (上図 4) を作成し、上図 4 の直線を伸縮して、交点 (上図 5) を作成します。

1.3 R形状の交点の作成

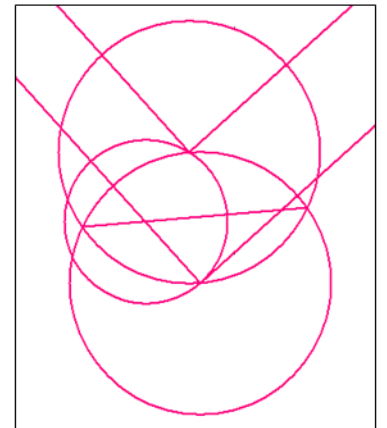


上図 6 のように R 形状の端点となる交点を 2 点作成します。

1.4 接円の作成

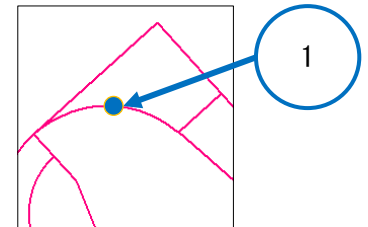


上図 7 の直線に接し、上図 8 , 上図 9 の交点を通る円を右図のように作成します。



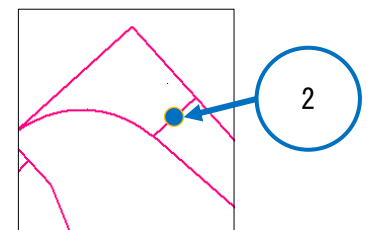
D) R 形状の投影 (2)

右図 1 の R 形状の矢視図を作成します。

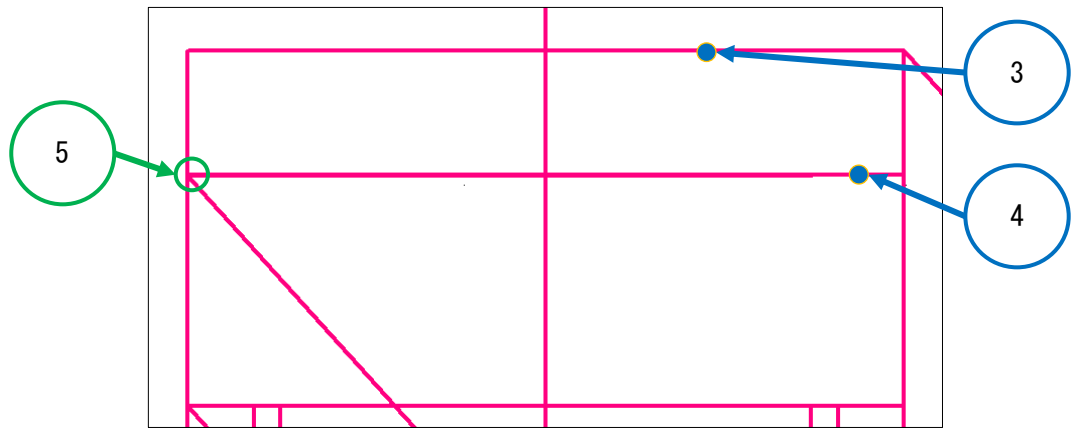


1.1 距離測定

右図 2 の直線の距離を測定します。
(測定結果 “ 0.935 ” を次の手順で使用します。)

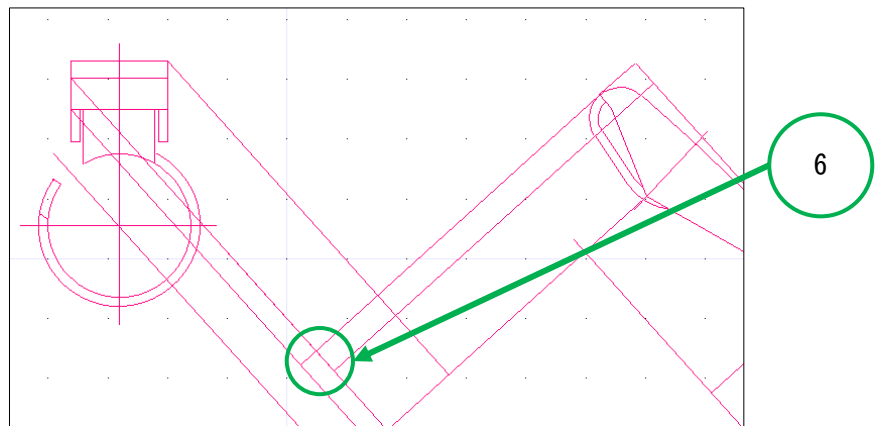


1.2 【複線】による交点の作成



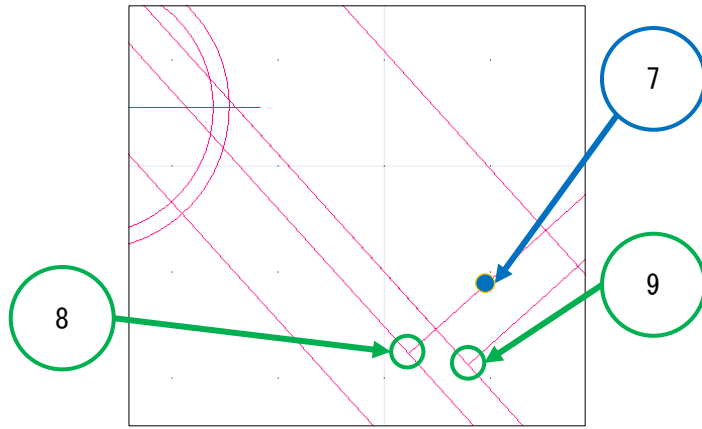
上図のように、上図 3 から距離を ” 0.935 ” とした複線（上図 4）を作成し、上図 4 の直線を伸縮して、交点（上図 5）を作成します。

1.3 R 形状の交点の作成

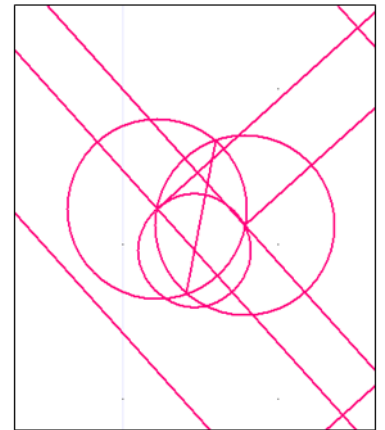


上図 6 のように R 形状の端点となる交点を 2 点作成します。

1.4 接円の作成

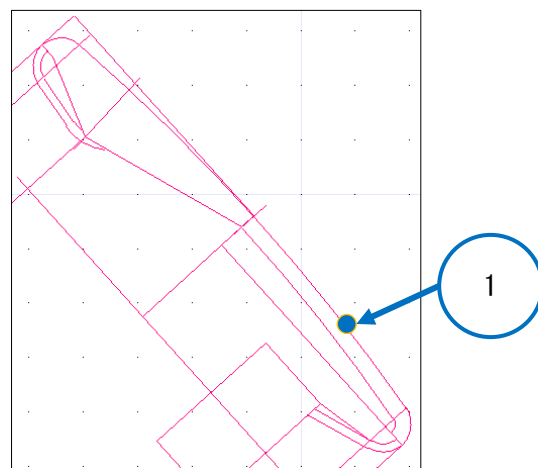


上図 7 の直線に接し、上図 8 , 上図 9 の交点を通る円を右図のように作成します。

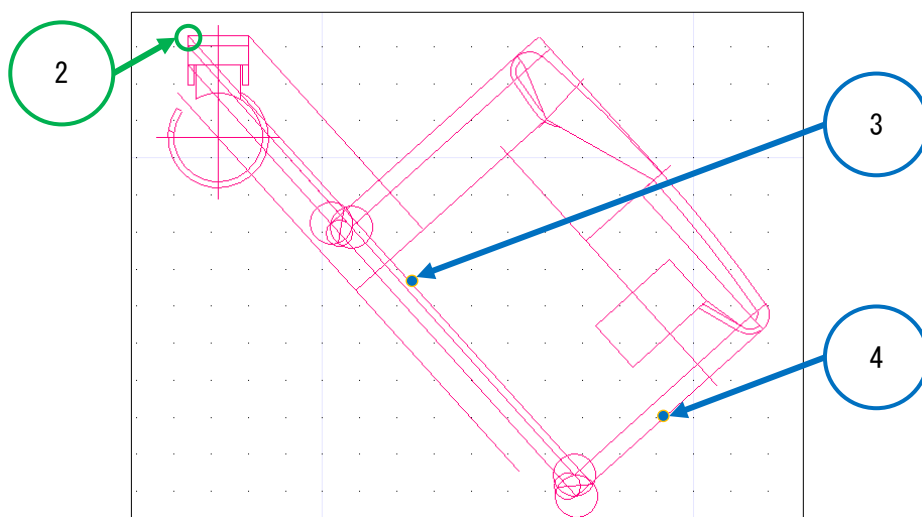


E) R形状の投影 (3)

右図 1 の R 形状の矢視図を作成します。

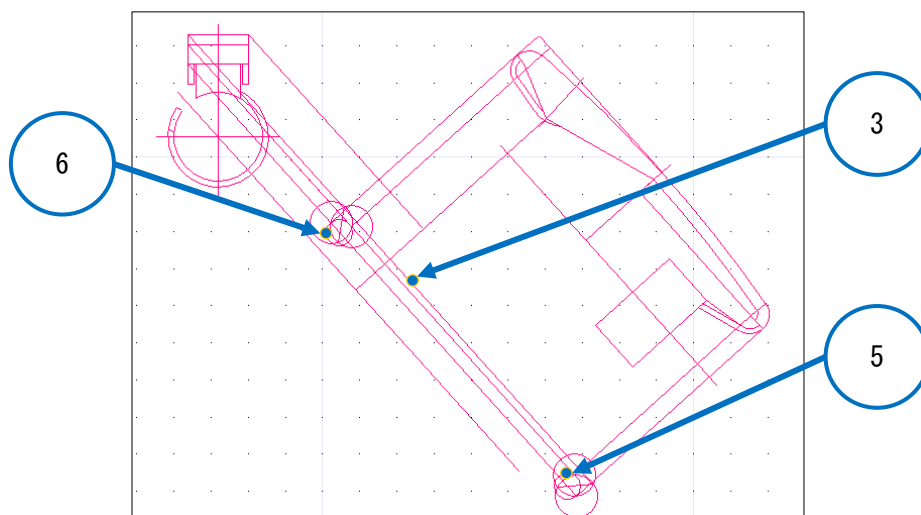


1.1 参照線の作成

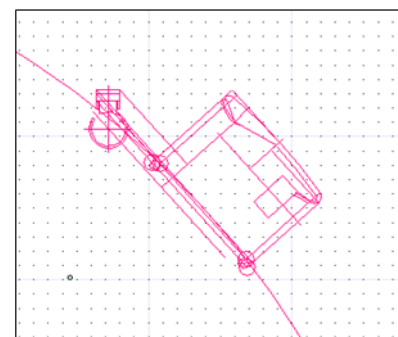


上図 2 の交点から、上図 3 の直線を作成し、上図 4 の直線へ伸縮します。

1.2 接円の作成

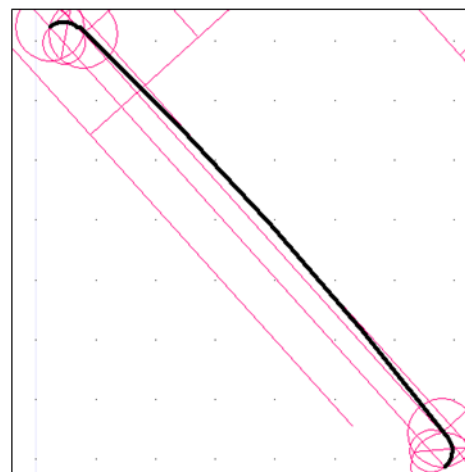


右図のように、【円・円弧】の「接円」を使用して、上図 3（前述で作成した直線）、上図 5（前述 C で作成した円）、上図 6（前述 D で作成した円）の 3 つの要素に接する円を作成します。



F) 矢視図の作成

レイヤ “グループ 0 - No.0” 【外形線①】で、右図のように、円弧を作成します。



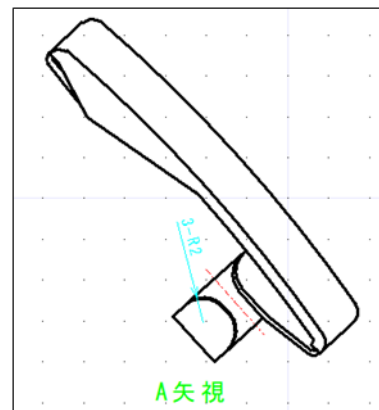
ここまでのように、【測定】を使いながら、交点を作成して作図をしていきます。

この矢視図での、3 接円で作成した円弧は、【複写】を使用して作成していきます。
(【複線】を使用すると、半径が変更されます。)

(ウ) 「 A 矢視図 」 作図 (2)

レイヤ

” グループ 0 - No. 1 ” 【 中心線 】 ,
” グループ 0 - No. 11 ” 【 寸法 】 ,
” グループ 0 - No. 12 ” 【 テキスト 】 で、
右図のように作図をします。



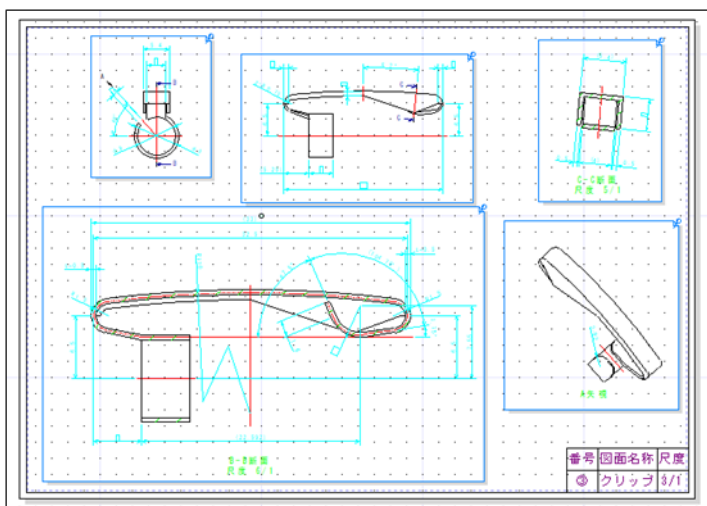
“ 中心線 ” は、実寸で “ 3 mm ” 突出します。

“ テキスト ” は、【 簡易文字 】を使用して、高さ、幅を共に “ 6 mm ” で作成します。

作図が終わりましたら、エリアサイズを任意の大きさに変更します。

1 1. 図面のレイアウト

レイヤ ” グループ 0 - No. 14 ” 【 作図補助線 】 , ” グループ 0 - No. 15 ” 【 寸法位置線 】 を非表示にし、下図のように、エリアの移動・整列をします。



1 2. 上書き保存

作図が終わりしましたので、上書き保存をします。